

P-8 新型コロナウイルスでの動物病院への影響と感染予防対策に関する研究

友野 悠

ヤマザキ動物看護大学

序文

2019年12月に中国武漢で発生した新型コロナウイルスは2020年2月には日本においても感染者が増加した。このウイルスへの感染予防として、密閉された場所や、人が多く集まる密集空間、人と人との密接な距離を避けることが推奨された。動物病院においても院内スタッフと飼い主、動物への感染予防対策をする必要があったが、明確なガイドラインはなく、各病院に対策が委ねられた。

本調査では動物院を対象に新型コロナウイルス感染拡大後の影響と感染予防対策についてアンケートを行い、動物病院で行える対策について検討した。

材料および方法

2020年4月16日～5月31日に、動物病院の獣医師に対してアンケート調査を行った。質問内容は、1) 病院の所在地、2) 2019年3、4月と比較した来院数の変化、3) 営業時間の変更の有無、4) 新型コロナウイルスを理由とした飼い主からの来院キャンセル問い合わせの有無、5) 感染予防対策（複数選択可）である。

結果

計31件の動物病院から回答を得られた。所在地は、東京都14件、神奈川県12件、埼玉県2件、千葉県1件、山梨県1件、静岡県1件であった。来院数は、「増えた」5件(16%)、「減った」11件(35%)、「変わらない」14件(45%)であった。営業時間は「短縮した」5件(16%)、「延長した」1件(3%)「変わらない」24件(77%)、「予約制にした」4件(13%)であった。キャンセルの問い合わせは、「あった」15件(48%)、「無かった」13件(42%)、「わからない」3件(10%)であった。感染予防対策として「1日の勤務スタッフの制限」7件、「外来数制限」11件、「フードや薬の郵送」13件、「院内消毒の徹底」26件、「特に何もしていない」0件、「その他」10件であった。「その他」の工夫では、換気5件、飼い主に車や院外で待機するよう指示5件、受付にフェイスシールドの設置2件、複数人での来院の断り2件、診察室にフェイスシールドの設置1件、外来予約の間隔延長1件、飼い主に電話での説明1件、不要不急の外来の断り1件、待合室の椅子の間隔延長1件、飼い主にアルコール綿花の配布1件であった。

考察

来院数は51%の動物病院で変化があった。また、感染予防対策は既に各動物病院行われていた。リバプール大学は動物病院の来院数の変化を調査した。その結果、感染者数が増加すると前月より来院数が減少し、飲食店などが再開されると来院数が増加した。また、American Veterinary Medical Associations は米国の動物病院2,017件に感染予防対策について調査を行った。「動物の治療中は飼い主を車で待機させる」と回答した動物病院が全体の半分以上だったのに加え、非対面での支払い、電話やテレビ電話での問診、高齢者の飼い主専用の時間の設定が挙げられていた。

日本においても、来院数の変化や感染予防対策に関する継続的な調査を行い、動物病院同士で情報共有をすることが、院内での感染予防に有益であることが示唆された。